DEBUT 首長

東京都府中市長　高野　律雄氏

歴史文化を生かし交流と協働 公共施設の更新へ準備急ぐ

たかの・のりお　1961年府中市生まれ。84年立教大学経済学部卒。レナウン勤務、幼稚園園長、99年から2011年４月まで３期府中市議、この間議長も務めた。野口忠直前市長の勇退に合わせて立候補し初当選、12年２月市長就任。50歳。

府中市　副都心・新宿から西へ22km、私鉄特急で22分の郊外の市。人口約25万人、この20年で２割増えた。東京競馬場のほか、東芝などの工場がある。

――「歴史と文化を大切にして新たな賑わいを」と公約した。まちづくりの方針を。

府中市は武蔵国（むさしのくに）（現在の東京都、埼玉県と神奈川県東部）の国府があったところで、1300年以上前から人々が行き交ってきた。近年の発掘調査で国衙（こくが）（国司の役所）跡がここだと明確にわかった。発掘した場所は大國魂神社（おおくにたま）の境内を挟んで市役所の真向かい。2009年、国の史跡に指定された。見学できるように整備してあり、観光客にぜひ見てもらいたい。

京王線府中駅からの中心市街地に国府跡や都内屈指の古社、大國魂神社があり、JR南武線・武蔵野線の府中本町駅近くには国府の役人たちが住んだ館の跡などがある。これらを結んで他の都市と違う特色を出す。商業都市機能では府中市はもっと頑張らなければならないが、府中駅前の再開発が順次進んでいる。ここから新しい風を起こし、若者にも魅力あるまちにする。

――市庁舎の建設計画は。

現庁舎は1959年建設で、その後２棟増築した。多摩地域でも一番古くなっている。前市長のもとで市民懇談会を設けて検討し、現在地で建て替える方向が打ち出された。議会も11年４月の改選後に話し合い、同じ方向で動いている。これらを踏まえて早々に計画を具体化する。市民の交流拠点にもなるように設計する。

――人口減少時代だが、府中市は人口が増えている。

東京郊外の環境の良さなどからマンション建設が相次いでいる。歴史のあるまちだけに文化施設など様々な公共施設が整っていることも人気の理由だろう。

長期的な課題がある。１つは早くに完備した下水道をはじめ、多くの公共施設が建設から40～50年経ち、今後、維持管理費や更新投資がかさんでくることだ。18年ごろにはまず下水管の更新工事に取りかからなければならない。市財政は比較的健全だが、最近は法人市民税の収入が減るなど予算編成が厳しくなってきた。市役所業務を見直し、可能なものは民間委託や民営化を考える。

もう１つ気がかりなのは、地域コミュニティーが薄れてきたこと。このあたりは元々農家が多く、住民同士の結び付きが強かった。今後は会社を退職した団塊世代の市民に地域で活動してもらいたい。市役所も「交流と協働」の仕掛けをいろいろ作っていく。

――大学ではラグビー部主将、会社勤めもJC活動もした。この経験をどう生かすか。

組織の大切さを認識しているつもりだ。１人ではできなくても組織ならばいろいろなことができる。市職員には「コスト意識を持ち、常に現場で市民ニーズを把握し、自由な発想で議論して組織力を発揮するように」と話している。

（聞き手は
ライター　平木　協夫）

禁複製・無断転載